

4課 道がふさがったのはターニングポイント(使徒16:6-10)

- 6 それから彼らは、アジャでみことばを語ることを聖靈によって禁じられたので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。
- 7 こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御靈がそれをお許しにならなかった。
- 8 それでムシヤを通って、トロアスに下った。
- 9 ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。
- 10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニヤに出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。



使徒の働き16章の背景は、パウロが第2次伝道旅行を始めたときです。アンテオケからシラスと共に出発し、多くの弟子たちが起きたデルベ、ルステラ、イコニオムを再び通って緒教会を力づけて（使徒16:1, 5）、ルステラでテモテを連れて、フルギヤとガラテヤ、ムシヤを通ってトロアスに至ります（使徒16:6-8）。

この過程で2回、道がふさがってしまいます。最初はピシデヤのアンテオケから西にあるアジャ地方（今の日本と韓国があるアジア地域ではありません^~^）に行こうとしましたがふさがり、上の都市（フルギヤ、ガラテヤ地方）に移動することになり、もう一回はムシヤからビテニヤに行こうとしたのですが、トロアスに向かうようになります。ここで重要なのは、道をふさいで他の場所に導かれる方が聖靈様であるということ（6節「アジャでみことばを語ることを聖靈によって禁じられたので…」、7節「イエスの御靈がそれをお許しにならなかった」と、聖靈様の導きに従う姿勢です（10節…と確信したからである）。

私たちはいつも聖書を通して、そして、現実の生活を通して、私たちの人生の主人であり、主体者である方は神様であることを見なければなりません。エペソ2:10「私たちは神の作品であって、良い行ないのためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです」神様はご自分の良い行いのために私たちを造り、罪過と罪によって死んだ私たちをキリストの十字架の愛によって、生き返らせてくださいました。ここで神様の良い行いとは、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです（ピリピ2:11）。



神様はカナンという終着地を定められ、神様が選んだ民イスラエルをエジプトから導かれました。約1か月で行ける距離を、荒野で40年とどまらせました。それは、イスラエルの民を試み、命令を守るかどうか、主の口から出るみことばで生きるようにさせるためでした（申8：2-3）。今も新しい天と新しい地を備えて、残りの者、巡礼者、征服者の道を歩く私たちの道を雲の柱、火の柱で保護し、みことばに従って生きるように導いておられます。

ニネベに行きなさいという命令に不従順になってタルシシュに逃げた預言者ヨナは、結局、ニネベに送られました。私たちがいくら自分の意志にこだわり、逃げようとしても、神様が定められたみこころは、必ず成就されます。聖霊の導きに敏感に反応して従うことができるように、毎日キリスト、神の国、聖霊の満たしの契約を握って祈りましょう。